

作物名 **きゅうり** (ウリ科)

J A 2022 版

標準作型

△印・定植

□印・収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地				△	△	[栽培期間]						
地這い					△	[栽培期間]						

栽培のポイント

有機質に富む中性の土壌を好み、暑さ（乾燥）・寒さに弱い。

品 種

露地：南極1号（ときわ） 主枝の雌花数が多い。  
夏すずみ（タキイ） ベと病、うどんこ病に強い。  
地這い：霜しらず地這きゅうり（サカタ）、新ときわ地這きゅうり

畑の準備  
元 肥

苦土石灰（10kg/a）、堆肥（100kg/a）を1ヶ月前までに投入、中耕をしておく。  
(1 a 当たり使用量)

ジシアン有機化成 S 806 号	15 kg	定植前(10 日)
ようりん	4 kg	

育 苗

播種時期は4月下旬から8月上旬で3号ポットに3粒・1ヶ位の深さにまく。  
間引きは本葉1~2枚のころに一本立ちにして、本葉3~4枚の苗に育てる。  
※ 播種量の目安：10ml / a

定 植

4月に植える場合は、マルチ・トンネルを利用し、防寒対策をする。また、乾燥を防ぐために、刈草やわらなどを敷き水を十分与える。  
定植本数の目安：130本 / a

仕立て

「支柱栽培」  
定植後、地上30ヶ以下の子づる雌花は取り除く。  
子づると孫づるは、葉を2枚残し摘芯する。親づるは25節程度で芯を止める。  
生長点は3つほど残す。  
栽植距離は、支柱仕立て180ヶ×35ヶ ネット栽培270ヶ×70ヶ  
「地這い栽培」

追 肥

特にきゅうりは肥料が不足すると葉の色が薄くなったり果実が変形するので、実が肥大し始めたら、5~10日おきに追肥する。浅根性で乾燥に弱いので、畑が乾いたら小まめにかん水する。

(1 a 当たり使用量)

NK化成2号	5 kg	1ヶ月後
	4 kg	実が肥大後、5~10日おき

病虫害防除

うどんこ病：窒素肥料の多投入、密植をさけ、日当たりと風通しをよくする。  
初期防除が大切。  
べと病：梅雨期など降雨が続いて多湿条件のときに発生する。肥え切れ（特に窒素肥料）や生育初期の果実のつけすぎ、株の生育が劣えた場合に出やすいので注意。

収 穫

収穫は鮮度を維持するため、朝の涼しいうちに行う。  
収穫始めに若採りをする、草勢が強まり着果数が増えて収穫量が多くなる。  
収穫は長さ20ヶ位を目安とし、取り残しがないようにする。